

スウェーデンにおける選挙

— 2014年と2018年の議会選挙を比較して

五月女 律子

1. はじめに

スウェーデンの政治は1920年代から5党システム、1990年代から7党システムといわれ、2010年代からは8党システムに変化している。7党システムまでは、国政レベルの議会 (Riksdag) に議席を持つ政党が左派、右派のどちらかのブロックに位置し、選挙における協力や連立政権の形成・閣外協力が行われてきた。2004年から中道右派4党は Alliansen (Allians för Sverige (スウェーデンのための連合)) という名称で選挙連合を結成しており、共同で作成したマニフェストを提示して2006年と2010年の選挙で勝利し、連立政権を形成した。対する左派3党は、右派ブロックよりは緩やかながら Rödgröna (赤緑) という名称で協力体制を築き、2014年から現在まで社会民主党 (Socialdemokraterna 以下社民党)¹と環境党 (Miljöpartiet de gröna) による連立政権が継続している。

右翼ポピュリスト政党²といわれるスウェーデン民主党 (Sverigedemokraterna) は、1988年の結党から選挙で候補者を立て続けたものの得票率が1%に満たない状況が続いていたが、2002年選挙以降は支持率を上げ、2010年選挙で国政レベルの議会で議席を獲得するに至った³。2010年から現在に至るまでスウェーデン民主党の議席数は伸張しているが、左右両ブロックの既存政党は協力を拒否しており、第3の勢力として存在する状況が継続している。2014

¹ 正式名称はスウェーデン社会民主労働党 (Sveriges socialdemokratiska arbetareparti) であり、SAP と略称されることもある。

² 極右 (far right, extreme right)、急進右翼 (radical right)、新右翼 (new right) といわれることもあり、研究者によって分類の名称は異なる。本稿はスウェーデン民主党がどの分類に当てはまるのかを分析することが目的ではないため、移民・難民の流入を規制して自国民の福祉を充実することを方針として掲げる政党として、右翼ポピュリスト政党という名称を使用している。スウェーデン民主党に関する邦語の詳細な研究には、渡辺 (2013; 2016; 2017) がある。

³ 地方議会では、2010年以前から南部を中心として徐々に議席を獲得していた。

年と 2018 年の選挙では、最大政党である左派の社民党と保守政党の穏健党 (Moderaterna)⁴に続き、議席数で第 3 党に位置している。選挙制度が比例代表制ということもあり、どの政党も議会の過半数を占めることができず、1990 年代以降は左右どちらかのブロックによる連立政権が多くなっているが、2014 年と 2018 年の選挙は左右両ブロックとも過半数に遠いハングパーラメントの状態となり、選挙後に混乱が生じる事態となった⁵。

右翼ポピュリスト政党といわれる政党の台頭はスウェーデンのみではなく、他のヨーロッパ諸国でも生じている現象である⁶。スウェーデンと同様に既存の左右両派の政党が右翼ポピュリスト政党との協力を拒否しているのはドイツであり、2017 年の選挙後に政権の樹立に時間がかかった⁷。右翼ポピュリスト政党と連立政権を構成したり、閣外協力で政権の安定を図ったりという道を選択したのはデンマーク、ノルウェー、フィンランドである。デンマークは左右両派の既存政党が右傾化し、右翼ポピュリスト政党の主張が政策に受け入れられるようになってきている。ノルウェーとフィンランド⁸は右翼ポピュリスト政党が既存政党と協力することにより、多少穏健化したといえる。

このようにスウェーデン以外でも右翼ポピュリスト政党の伸張は国内の政党政治に影響を与えているが、スウェーデンでは直近の 3 回の選挙で連続して右翼ポピュリスト政党が議席を増加させている。本稿ではスウェーデン民主党が初めて国政レベルの議会で議席を獲得した 2010 年以降、得票率を上げ続けた 2014 年と 2018 年の議会選挙を比較する⁹。ただし、スウェーデン民主党を中心に分析するのではなく、選挙時の争点・世論、既存政党も含めた支持率および得票率の増減、政党のマニフェスト、党首の評価などを考察す

⁴ 正式名称は Moderata samlingspartiet であり、穏健連合党または穏健統一党と邦訳されることが多い。

⁵ 2014 年は政府による次年度予算案が議会で成立せず、首相が再選挙を公言する事態となった。12 月に左翼党 (左派) とスウェーデン民主党を除く議会政党の 6 党によって、今後の 2 期 (8 年間) は政府の予算案を尊重する合意が成立し、再選挙は行われなかった。2018 年 9 月の選挙後は政権樹立に時間がかかり、翌年 1 月に左派 2 党の連立政権に中道右派 2 党が閣外協力し、左翼党からの支持を前提として新政権が誕生した。

⁶ ヨーロッパ各国における近年の右翼ポピュリスト政党の特徴については、Aalberg et al. (2017), Caiani and Cisar (2018), Widfeldt (2015), 新川 (2017)、高橋・石田 (2016) などで分析されている。

⁷ 連立政権を構成していたキリスト教民主同盟・社会同盟と社会民主党は第 1 党、第 2 党を維持したが大きく議席を減らし、新政権の樹立までに 5 カ月かかった。

⁸ フィンランドの右翼ポピュリスト政党は政権参加後に分裂し、穏健派は新党を結成し、EU 懐疑・反移民派は野党となった。2019 年 4 月に実施されたフィンランドの国政選挙では、野党となっていた右翼ポピュリスト政党が第 1 党と 1 議席差の第 2 党となった。5 月上旬時点では組閣に難航している状況が続いている。

⁹ 2010 年選挙に関する分析は、五月女 (2011)、渡辺 (2013: 407-420) を参照されたい。

る。また、スウェーデンでは国、県、市町村の議会の選挙が4年毎に同日（9月第2日曜日）に行われるが、本稿では国政レベルの議会選挙のみを分析の対象とする。

以下、第2節では2014年に実施された選挙を考察し、第3節では2018年の選挙を検討する。第4節では2014年と2018年の選挙を比較し、相違点と共通点を探ることを目指す。最後に選挙の結果が今後のスウェーデン政党政治に与える影響について考えたい。

2. 2014年選挙

2.1 選挙運動期間における争点と世論

2014年はスウェーデンにおいて国内選挙の前に、5年毎の欧州議会選挙が5月下旬に実施され、1年に選挙が2度行われる年となった。欧州議会選挙では環境党が躍進し、国政レベルの議会で第2党の穏健党を超える得票率となった。得票率の増加はスウェーデン民主党が6.4ポイントと最も大きく、フェミニスト・イニシアティブ（Feministiskt initiativ）という男女平等を主張する政党も得票率を上げ、2党が初めて欧州議会の議席を獲得した。欧州議会選挙における得票率は順に、社民党、環境党、穏健党、自由党¹⁰、スウェーデン民主党、中央党、左翼党、キリスト教民主党¹¹、フェミニスト・イニシアティブとなり、議席を獲得した政党は前回の2009年選挙から1党増えて9党となった¹²。

5月の欧州議会選挙では既存7党に加えて、スウェーデン民主党とフェミニスト・イニシアティブへの有権者の支持がマスメディアにおいて取り上げられ、続く9月の国内議会の選挙でも2党が得票率を伸ばすかが注目された。2010年のスウェーデンにおける国政レベルの議会選挙では、マスメディアで中心的に取り上げられたのは既存の7党であり、スウェーデン民主党に対しては批判的な論調が多く、テレビやラジオの討論番組にもスウェーデン民主党は招かれなかった状態であった。しかし、2010年選挙でスウェーデン民主党が国政レベルの議会で議席を獲得し、その後も世論調査で支持率が上

¹⁰ 2015年に党の正式名称が自由党（Liberalerna）に変更されるまで、1990年から国民党・自由（Folkpartiet liberalerna）という名称であったため「国民党」と表記されることもあった。本稿では便宜上、2015年以前も「自由党」と統一して表記する。中道右派に分類される政党である。

¹¹ 中央党と左翼党は5党システムの時から存在する政党であり、それぞれ農民党、共産党から名称が変更され、前者は中道、後者は左派に分類される。キリスト教民主党は国政レベルの議会で議席を獲得したのは1991年からであり、保守または中道右派と言われる。

¹² 2009年の欧州議会選挙で議席を獲得した海賊党は、得票率を落として議席を失った。2014年のスウェーデンにおける欧州議会選挙については、五月女（2015）を参照されたい。

昇する中で、マスメディアも無視できない状況となっていた。

2006年から中道右派4党による連立政権であり、2014年選挙時も議会第2党の穏健党党首のラインフェルト（Fredrik Reinfeldt）が首相を続けていた。与党の中道右派4党は各党のマニフェストを公表するとともに、2006年および2010年の選挙と同様にAlliansenとしてのマニフェストを作成・公表した。議会第1党であった社民党は2012年に党首がロヴェーン（Stefan Löfven）に交代しており、2014年選挙では中道右派4党の連立政権が2期8年続いていたこともあり、左右のどちらのブロックが政権に就くか、政権交代が起こるかが注目された。

各党のマニフェストで初めの方に記載されていた3項目を挙げると、穏健党は雇用、学校教育、スウェーデン経済で、主に経済成長の視点から政策が提示されていた。中央党は雇用、環境、開発で環境保護の視点が強く、自由党は学校教育、男女平等、雇用で、特に学校教育に力を入れている党であることを強調していた。キリスト教民主党は家族、学校教育、医療であり、家族を挙げているのは他の党には見られない特徴であるといえる。4党によるAlliansenとしては経済、雇用、社会統合が重視されていた。野党で第1党の社民党は雇用、学校教育、福祉の充実を主張し、環境党は環境、雇用、学校教育で、どの政策分野でも環境保護を重視する姿勢が示された。左翼党は福祉、雇用、男女平等を強調していた。スウェーデン民主党のマニフェストは2010年選挙時と比較して分量が増え、方針が示される政策分野も増加したが、治安、高齢者、移民が初めに書かれており、これらの政策領域を同党が重視している姿勢が示されていた。この点では2010年と大きな変化は見られなかったといえる。8党のマニフェストを見ると、全体としては初めの方で雇用と学校教育に触れているものが多かったといえる。

有権者に対して行われた投票時に重視する政策分野に関する世論調査では、1～5位は順に学校教育、医療、スウェーデン経済、社会福祉、雇用であった（Holmberg 2014: 9）。これらは過去の選挙でも投票理由として上位にあり、大きな変化は見られなかった。しかし、1979年から2014年までの選挙における争点を調査した研究では、2014年の選挙で移民・難民に関する有権者の関心が非常に高くなったことが示されている。投票する政党の選択において重要な争点を複数領域から選ぶ調査で、2010年の選挙まで移民・難民は10%以下であったが、2014年は2010年の9%から23%に急増し、重要な政策分野の4位となった¹³（Oscarsson and Holmberg 2017: 12）。別の世論調査でも、

¹³ 1位は医療保健・福祉、2位は教育、3位は完全雇用、5位は環境であった。

投票政党を決定する際に重視する争点として、移民・難民は2010年の26%から35%に増加したことが示されている (Holmberg and Oscarsson 2018: 10)。

政策以外で投票時に重視される要素として党首の評価が挙げられるが、2014年選挙時の世論調査において、政党選択で党首を重視する回答の割合が高かった5党は次の通りであった。穏健党 (Fredrik Reinfeldt 45%)、スウェーデン民主党 (Jimmie Åkesson 38%)、フェミニスト・イニシアティブ (Gudrun Schyman 33%)¹⁴、社民党 (Stefan Löfven 24%)、中央党 (Annie Lööf 22%) の順で (Holmberg and Oscarsson 2018: 37)、当時首相であった穏健党党首と比較的新しい2党の党首が有権者から評価されていたといえる。ただし、各党の支持率が政党選択で党首を重視する割合と比例するわけではなく、党首の知名度や評価は高くても、政党への支持は各党の政策も有権者にとって重要な判断材料にされていると考えられる。

スウェーデン統計局 (Statistiska centralbyrån : SCB) が毎年実施している支持政党に関する世論調査では、支持率の変化は以下の表1の通りであり、穏健党は2011年から支持率を落とし続け、支持率を上げているのは左翼党とスウェーデン民主党で、他の政党は横ばいの状況であった。上述のように、穏健党の党首は首相として知名度もあり評価もされていたと考えられるが、党の支持率は下がっており、左翼党は政党選択で党首を重視する割合は9党中7番目 (Jonas Sjöstedt 19%) と高くはなかったが (Holmberg and Oscarsson 2018: 37)、党の支持率は上昇していた。

表1 主要政党の支持率 (各年5月、%)

	2011年	2012年	2013年	2014年
穏健党	31.1	28.6	26.9	22.7
中央党	4.5	4.7	4.2	4.9
自由党	6.0	5.5	6.0	5.3
キリスト教民主党	3.8	3.7	3.6	3.9
社民党	34.0	37.3	35.6	35.3
左翼党	4.5	5.9	6.4	8.0
環境党	8.9	8.1	8.5	8.0
スウェーデン民主党	5.7	5.4	7.7	8.1
その他	1.5	0.8	1.1	3.9

出所：SCB (2014: 5) のデータより筆者作成。

¹⁴ 当時3名いた党代表のうちの一人。

世論調査結果は与党であった中道右派4党に厳しい状況が続いたが、選挙前の2014年8月23日に報道された別の世論調査¹⁵では、穏健党が同年7月に19.4%であった支持率を23.4%に伸ばし、7月時点で左派ブロックと17.8ポイントの差がついていた右派ブロックの支持率が、8.9ポイント差と半分には縮小した¹⁶。しかし、8月の調査結果を2010年選挙の得票率と比較した場合、穏健党は-6.6、自由党は-1.4、中央党は-1.9、キリスト教民主党は-2.0と与党4党は依然として厳しい状態にあり、野党の左派3党の社民党(-0.7)、環境党(+2.5)、左翼党(+0.9)もあまり伸びていなかった。支持率が大きく上昇したのはスウェーデン民主党であり、同調査で過去最高の12.2%(+6.5)で社民党、穏健党に次ぐ第3党となった。既存の7政党への支持が伸びない中で、左右のブロックのどちらが政権を担うことになるのか、スウェーデン民主党がどのくらい議席を増やすのかが注目される選挙となった。

2.2 投票結果

9月14日に議会選挙が実施され、投票率は85.81%と前回2010年選挙の投票率84.57%を1.24ポイント上回った(Valmyndigheten 2014a)。表2の通り、第1党が社民党、第2党が穏健党、第3党がスウェーデン民主党という結果となった。

表2 2014年議会選挙結果(合計349議席)

	穏健党	中央党	自由党	キリスト教 民主党	社民党	左翼党	環境党	スウェーデン 民主党
得票率(%)	23.33 (-6.74)	6.11 (-0.44)	5.42 (-1.63)	4.57 (-1.03)	31.01 (+0.35)	5.72 (+0.11)	6.89 (-0.45)	12.86 (+7.16)
議席数	84 (-23)	22 (-1)	19 (-5)	16 (-3)	113 (+1)	21 (+2)	25 (0)	49 (+29)

* 下段の括弧内は2010年選挙からの増減。

出所: Valmyndigheten (2014a; 2014b) のデータより筆者作成。

¹⁵ 以下のデータは Karlsson (2014) を参照。

¹⁶ 7月の世論調査では左派3党の支持率の合計が52.3%、中道右派4党の合計が34.6%であったが、8月の調査では左派合計が46.2%、中道右派合計が37.3%となった。

スウェーデン民主党が 29 議席も増やす躍進であったが、左派 3 党（社民党、左翼党、環境党）も僅かではあるが議席増または変化なしであり、中道右派 4 党（穏健党、中央党、自由党、キリスト教民主党）は全政党が議席を減らした。特に穏健党は 23 議席減少という惨敗の結果となった。中道右派 4 党の支持者がスウェーデン民主党に流れたと単純に見ることはできないが、議席数の変化の上では中道右派政党が減らした議席の大部分をスウェーデン民主党が獲得したといえる。スウェーデンテレビ（Sveriges Television: SVT）の調査では、スウェーデン民主党に投票した有権者のうち 29%が前回 2010 年選挙で穏健党に投票していたとの結果が出ており（Salö 2014）、穏健党からスウェーデン民主党に投票先を変えた有権者が多かったといえる¹⁷。2014 年選挙での穏健党の敗北を分析した研究によると、スウェーデン民主党に投票政党を変更した主たる理由は、穏健党の難民受け入れに対する寛容な姿勢や政治家への不満であった（Ekengren and Oscarsson 2015: 155）。

政治家への信頼度に関する世論調査では、1998 年以降はどの政党の支持者も信頼する割合が上昇傾向にあったが、2014 年は若干低下した。概して中道右派政党の支持者の方が、左派政党支持者と比較して政治家への信頼が高いといえるが、政治家への信頼が目立って低いのがスウェーデン民主党支持者であった（SVT 2014）。この調査結果からは、既存政党の政治家に不信感を持つ有権者がスウェーデン民主党に投票したと推測できるであろう。

2010 年選挙の結果では、中道右派 4 党の合計議席数が 173、左派 3 党が 156、スウェーデン民主党が 20 であったが、2014 年選挙では中道右派 4 党で 141、左派 3 党で 159 となり、左右両ブロックとも議会定数の過半数を大きく割り込むことになった。この結果を受けて政権は社民党と環境党の連立となったが、少数政権のため法案が議会を通過しないなどの問題が生じ、再選挙実施の一手前まで進む事態となった。2010 年選挙では中道右派 4 党の合計が過半数にかなり近かったため、議会運営で大きな混乱が生じることは避けられたが、2014 年選挙後は左右両派が協力を拒んでいるスウェーデン民主党の議席数が大幅に増加したため、政治的に不安定な状況に陥った¹⁸。

他の 2014 年選挙の変化としては、フェミニスト・イニシアティブの得票率

¹⁷ 同調査で、2014 年にスウェーデン民主党に投票した有権者のうち、2010 年も同党に投票していたのは 41%であった。穏健党と社民党からスウェーデン民主党に投票先を変更した有権者の割合を足すと 45%となり、既存の 2 大政党から有権者を獲得することに成功したといえる。なお、2010 年選挙で穏健党に投票した有権者のうち 11.4%がスウェーデン民主党へ、7.8%が社民党に投票政党を変えていた（Tryggvason 2014: 21）。

¹⁸ 1957 年から 2010 年までの政権と与党議席占有率および、1960 年から 2010 年までの議会選挙結果については、五月女（2013: 257-258）を参照されたい。

が 3.12%となり、2010 年選挙での 0.40%から大きく上昇したことがある (Valmyndigheten 2014a)。同年 5 月に行われた欧州議会選挙では、フェミニスト・イニシアティブが 5.49%の得票率で 1 議席を獲得したため、当時は注目されてマスメディアなどで取り上げられていたことが、得票率上昇の背景として考えられる。しかし、スウェーデンでは得票率が 4%未満の政党には議席が配分されないため、国政レベルの議会での議席獲得はならなかった。フェミニスト・イニシアティブの得票の分布を見ると、大都市部および北部と中部の一部で得票率が高いが、南部では支持が広がらなかった (Oscarsson and Holmberg 2016: 32, 43)。フェミニスト・イニシアティブの代表の一人 (Gudrun Schyman) は、1993 年から 2003 年まで左翼党党首であったこともあり知名度が高かったといえるが、男女平等は他の政党も軽視していた訳ではないため、支持者を大幅に増やすことは難しかったと考えられる。

3. 2018 年選挙

3.1 選挙運動期間における争点と世論

2018 年選挙では社民党と環境党の連立政権が継続するのか、スウェーデン民主党がどの程度議席を伸ばすのかが注目されることになった。欧州難民危機といわれる 2015 年以降のヨーロッパに流入する難民数の急増に対し、スウェーデンは多くの難民を受け入れ、国内で難民の問題がそれまで以上に注目される状況となった。2018 年には難民流入は数の面では落ち着いたものの、従来はスウェーデンでは公の場で政治的問題として言及されることが少なかった移民・難民に関して、多くの国民が関心を持つ状況であったといえる。

このような背景から、選挙運動期間中に有権者が重視する争点として、移民・難民問題と社会統合が注目されるようになった。8 月時点の世論調査では、有権者が投票で重視する争点の 1 位が医療 (47%)、2 位が移民・難民 (42%)、6 位に社会統合 (21%) であった。9 月の選挙直前では、1 位が医療 (52.3%)、2 位が移民・難民 (45.8%)、社会統合が 5 位 (23.6%) という結果であった (Johansson 2018c)。別の世論調査でも、投票政党を決定する際に重視する争点として移民・難民は 2014 年の 35%から 41%に増加している (Holmberg and Oscarsson 2018: 10)。スウェーデンの主要都市で無料配布され、多くの有権者が通勤・通学時に手にする新聞 Metro に投票日 2 日前に掲載された、有権者が重視する争点に対する各党の方針を示した一覧表でも、医療に次いで 2 番目に移民・社会統合、3 番目に犯罪・刑罰が記載されていた (Johansson 2018d)。

各党のマニフェストで初めの方に記載されていた 3 項目としては、与党の

社民党は雇用、学校教育・医療・高齢者、治安、環境党は環境、男女平等・人権、平和であった。左翼党は平等、税制、環境であった。野党の穏健党は経済・雇用・成長、法・秩序、移民・統合で、中央党は雇用、社会統合、発展、自由党は学校教育、社会統合・雇用、EU（国際協力）、キリスト教民主党は医療、治安、高齢者であった。野党の中道右派4党で合意できない政策分野が複数あったが、Alliansenとして発表されたマニフェストで重視された分野は、雇用、社会統合、スウェーデン企業であった。スウェーデン民主党は医療、社会統合、移民を初めの3項目に挙げるとともに、選挙公約としてEU離脱を問う国民投票の実施を掲げた。同党にとって従来は中心的な主張ではなかったが、2016年にイギリスで実施された国民投票から影響を受けたと考えられる。

2014年選挙時の各党のマニフェストからの変化としては、治安、社会統合、移民などが初めの方に記載されるようになったことが挙げられる。雇用、学校教育、経済や、各党が自党の特徴として重視してきた政策分野に大きな変化はないが、従来選挙では重要項目として論点になることが少なかった分野が表に出てきたといえる。スウェーデン民主党が主張したEUに関する国民投票については、選挙運動期間中にスウェーデンにおいてEU離脱が争点になることはなかった。

2018年選挙時の世論調査で政党選択において党首を重視する回答の割合が高かった5党は、スウェーデン民主党（Jimmie Åkesson 45%）、キリスト教民主党（Ebba Busch Thor 35%）、中央党（Annie Lööf 34%）、穏健党（Ulf Kristersson 31%）、フェミニスト・イニシアティブ（Gudrun Schyman 27%）の順で（Holmberg and Oscarsson 2018: 37）、党首の年齢が若い党や前回選挙から党首が交代した党において、党首が政党選択で重視される傾向が見られた。

選挙前の5月時点における各党に対する支持率は表3の通りであり、中央党と左翼党が支持率を上げていたが、最も伸びが大きかったのはスウェーデン民主党であった。

表3 主要政党の支持率（2018年5月、%）

穏健党	中央党	自由党	キリスト教民主党	社民党	左翼党	環境党	スウェーデン民主党
22.6	8.7	4.4	2.9	28.3	7.4	4.4	18.5
(-0.7)	(+2.6)	(-1.0)	(-1.7)	(-2.7)	(+1.7)	(-2.6)	(+5.6)

* 下段の括弧内は2014年選挙の得票率からの増減。

出所： SCB (2018a: 3) のデータより筆者作成。

各社の世論調査で支持率に差異はあったものの、スウェーデン民主党の躍進が予想される調査結果が多かった。Metro に掲載された YouGov の世論調査結果では、6月のスウェーデン民主党への支持率は28.5%、7月は25%、8月は24.2%、9月の選挙直前は24.8%で、社民党を僅かに上回った5月以来、第1位の支持率を保っていた。政権与党で第1党の社民党は、同調査で7月に21.2%という低さを記録し、8月は21.9%、9月は23.8%と支持率の低迷が続いた (Johansson 2018a; 2018b; Peterson 2018a)¹⁹。各種世論調査の結果から、投票直前まで外国のマスメディアも含めて、スウェーデン民主党が第1党になる可能性が報道された。

世論調査ではどの政党も議会の過半数を獲得する見通しがなく、左右それぞれのブロックの合計としても過半数が厳しい結果が予測される中、選挙後の政権構成として6つのシナリオがあり得ることが示されるなど (Peterson 2018b)、新政権樹立の難しさが予想される状況であった。

3.2 投票結果

9月9日に実施された選挙では投票率は87.18%となり、2014年選挙の投票率よりも1.38ポイント上昇した。結果は表4の通り、第1党は社民党、第2党は穏健党、第3党はスウェーデン民主党と、2014年選挙から順位に変動はなかった。

表4 2018年議会選挙結果 (合計349議席)

	穏健党	中央党	自由党	キリスト教 民主党	社民党	左翼党	環境党	スウェーデン 民主党
得票率 (%)	19.84 (-3.49)	8.61 (+2.49)	5.49 (+0.07)	6.32 (+1.75)	28.26 (-2.75)	8.00 (+2.29)	4.41 (-2.47)	17.53 (+4.68)
議席数	70 (-14)	31 (+9)	20 (+1)	22 (+6)	100 (-13)	28 (+7)	16 (-9)	62 (+13)

* 下段の括弧内は2014年選挙からの増減。

出所: Valmyndigheten (2018a; 2018b) のデータより筆者作成。

¹⁹ ただし、選挙後に世論調査の正確性を検証した研究では、対象の世論調査の中で YouGov は2014年選挙では最も誤差が少なかったが、2018年選挙で最も誤差が大きく、特にスウェーデン民主党への支持率が過大であったことが示されている。詳細については Tryggvasson (2018: 5-7) を参照。

2014年選挙に続いてスウェーデン民主党が議席を大きく伸ばすことになったが、2018年選挙では各党で議席の増減はあるものの、中道右派4党は合計すると2議席増やし、左派が左翼党以外は議席を減らす結果となった。第1党の社民党と第2党の穏健党が大きく議席を減らしたのは、有権者が既存の2大政党に対して不満を持っている表れと考えられる。前回の2014年選挙では議席獲得の可能性も見えたフェミニスト・イニシアティブは、0.46%と前回選挙の3.12%から大幅に得票率を落とし（Valmyndigheten 2018a）、選挙運動期間中も大きな注目を集めることはなかった。そのため、国政レベルの議会に議席を持つ政党は8党のまま変化はなかった。

中道右派4党の合計議席数が143、左派3党は144と拮抗し、左右の両ブロックとも議会の過半数から遠い状況となった。選挙後も既存7政党はスウェーデン民主党との協力を拒んだため、連立政権が議会で3回承認されない事態となり、4度目に承認されなければ再選挙というところで、左派2党（社民党と環境党）による連立政権が中道右派2党（中央党と自由党）の閣外協力を得る形で誕生した。9月の選挙後翌年の1月まで新政権が発足しないというスウェーデンでは珍しい状態となった。

4. 継続と変化

4.1 有権者の投票動向

有権者の投票に関する調査データで見ると、支持者が多い地域として社民党と左翼党は北部、環境党は都市部と最北部、穏健党と自由党は都市部、中央党は最北部以外、キリスト教民主党は北部と南部、スウェーデン民主党は中部と南部という大まかな傾向は大きく変わっていない。フェミニスト・イニシアティブを含めた9党以外への投票も、2014年が0.97%、2018年が1.07%と大きな変化はなかった（Valmyndigheten 2014a; 2018a）。

支持者の継続性を見ると、2014年選挙で2010年選挙と同じ政党に投票した割合が最も高かったのはスウェーデン民主党（79%）で、以下は2位が社民党（78%）、3位がフェミニスト・イニシアティブ（69%）、4位が穏健党（63%）、5位がキリスト教民主党（58%）、6位が左翼党（57%）、7位が中央党（55%）、8位が環境党（50%）、9位が自由党（43%）であった。2010年選挙から投票政党を変えた中で割合が多かったのは、左翼党からフェミニスト・イニシアティブ（20%）、環境党からフェミニスト・イニシアティブ（19%）、自由党から穏健党（17%）であった。2010年選挙で投票しなかった有権者を最も獲得したのは社民党（37%）、次いで穏健党（15%）、スウェーデン民主党（14%）であった。2010年に投票権を持っていなかった有権者の獲得に成

功したのは、社民党 (20%)、穏健党 (18%)、環境党 (15%) であった (Holmberg 2014: 14)。

2018 年選挙で 2014 年選挙と同じ政党に投票した割合が最も高かったのはスウェーデン民主党 (86%) で、以下は 2 位が社民党 (69%)、3 位が左翼党 (63%)、4 位が穏健党 (58%)、5 位がキリスト教民主党 (53%)、6 位が中央党 (51%)、7 位が自由党 (41%)、8 位が環境党 (36%)、9 位がフェミニスト・イニシアティブ (20%) であった。2014 年選挙から投票政党を変えた中で割合が多かったのは、フェミニスト・イニシアティブから左翼党 (45%)、環境党から社民党 (27%)、左翼党から社民党 (23%)、その他の政党からスウェーデン民主党 (23%) であった。2014 年選挙で投票しなかった有権者を最も獲得したのはスウェーデン民主党 (30%) で、次いで社民党 (22%)、穏健党 (20%) であった。2014 年に投票権を持っていなかった有権者が投票した政党は、穏健党 (24%)、社民党 (23%)、中央党とスウェーデン民主党 (ともに 11%) の順であった (Holmberg and Oscarsson 2018: 15)。

2014 年と 2018 年の選挙データを比較すると、左派政党の間での票の移動の割合が大きく、中道右派政党の間でも票の動きはあったが、左右を跨いで有権者が投票政党を変更した割合は低かった。スウェーデン民主党は支持者が固定化し、2014 年選挙で他党に投票した有権者および、投票自体しなかった有権者の支持を得ることに成功したといえる。また、2014 年選挙と比べて特に穏健党、キリスト教民主党、社民党から有権者を獲得しており (Holmberg 2014:14; Holmberg and Oscarsson 2018: 15)、保守政党と最大左派政党に不満を持つ人々を引きつけたと考えられる。

4.2 スウェーデン民主党の躍進

スウェーデン民主党はスウェーデンの南部に得票率が高い地域が多く、首都のストックホルムなど得票率が低い地域との差が存在している。この傾向は 2014 年と 2018 年の両選挙で共通している。しかし、2018 年選挙ではすべての選挙区でスウェーデン民主党の得票率が上昇しており、増加幅に差はあるものの全国でスウェーデン民主党への投票が増えている (Valmyndingeten 2014a; 2018a)。

2010 年にスウェーデン民主党が国政レベルの議会で初めて議席を獲得した時点では若者 (18~30 歳) からの支持が強かったが、2014 年には高齢者 (61~80 歳) が最も強い支持層であったとの研究結果が出ている (Oscarsson and Holmberg 2017: 20)。別の世論調査でも、2014 年 5 月と 11 月を比較した場合、男性は 55 歳以上でスウェーデン民主党への支持率が特に増加し、女性

も 65～74 歳の支持率が最も増加していた (SCB 2014: 17-18)。2014 年選挙に関する研究では、スウェーデン民主党の支持者は他党の支持者と比較して、政党に関する情報をソーシャルメディアから得る人の割合が低いという調査結果が示されている²⁰。

支持者に男性が多いことも、スウェーデン民主党の特徴の一つである²¹。穏健党も 1970 年代末から男性の支持率が高いが、スウェーデン民主党の男女の支持率の差は 2006 年から開く傾向にある。2018 年 11 月時点の世論調査では、スウェーデン民主党を支持する男性は 18.4%、女性は 7.5%とその差は 10.9 ポイントであり、2014 年 11 月の 5.6 ポイントからさらに広がっている (Oscarsson and Holmberg 2017: 20; SCB 2014: 17-18; 2018b: 14-15)。

2014 年の選挙に関する分析によると、スウェーデン民主党を支持する割合が高いのは、失業者と年金生活者であり、学生からの支持はあまり高くない (Tryggvason 2014: 10)。投票の際の政党選択で重視する政策分野に順位をつける世論調査では、スウェーデン民主党の 1～5 位は順に移民・難民、法・秩序、医療、高齢者ケア、スウェーデン経済であった。各党に対する評価でスウェーデン民主党が最も高かった政策分野は移民・難民であり、社民党に次ぐ評価であった (Holmberg 2014: 10, 11)。

別の 2014 年の世論調査において、投票する政党の重要な選択理由としてスウェーデン民主党で高かったのは、選挙キャンペーンでのパフォーマンス (調査対象の 9 党中 1 位)、党首 (2 位) であり、低かったのはイデオロギー (最下位) であった。特にイデオロギーについては、1 位のフェミニスト・イニシアティブは 82%であったのに対して、スウェーデン民主党は 27%であり、次に低い穏健党の 40%と比較しても低さが際立っているといえる²² (Oscarsson and Holmberg 2017: 19)。この調査結果から見ると、2014 年選挙でスウェーデン民主党に投票した有権者の多くは党の根本的なイデオロギーを支持したのではなく、移民・難民の流入を防いでスウェーデン国民の福祉を充実させると選挙運動期間中に主張した若い党首に共感を示したと考えられる。

2018 年選挙においては、投票時の政党選択で重視する政策分野に順位をつける世論調査でスウェーデン民主党の 1～5 位は順に、移民・難民、法・秩序、

²⁰ 最も割合が高いのがフェミニスト・イニシアティブの支持者で 89%、スウェーデン民主党の支持者は 19%であった (Sandberg 2018: 6)。

²¹ スウェーデン民主党をジェンダーの視点から分析した研究としては Mulinari and Neergaard (2017) がある。

²² 選挙キャンペーンでのパフォーマンスの 2 位はフェミニスト・イニシアティブで、党首の 1 位は穏健党であった。

医療、高齢者ケア、年金であり (Holmberg and Oscarsson 2018: 10)、2014 年選挙と大きな違いはなかった。移民・難民の受け入れを制限し、国内の福祉を充実させるという党の主張が受け入れられていると考えられる。各党の政策に対する評価でスウェーデン民主党が最も高かった分野は、2014 年同様に移民・難民であったが、社民党を抜いてトップとなった。法・秩序でも大きく評価を上げ、他のすべての政策分野でも 2014 年と比較して評価が上がっていた (Holmberg and Oscarsson 2018: 12)。国政レベルの議会で議席を獲得してから野党でありつづけているが、スウェーデン民主党の移民・難民以外の政策分野での公約にも期待する有権者が増えているといえよう。

2018 年の選挙キャンペーン中に、スウェーデン民主党は EU 離脱を問う国民投票の実施を公約に掲げたが、世論調査ではスウェーデン人の EU に対する支持率は上昇傾向にあり²³、有権者に EU 自体が選挙の論点として注目されていなかった。選挙での政党選択で重視する争点を選ぶ世論調査でも、スウェーデン民主党を選択する理由として EU は 19 項目中 16 位であった²⁴。マスメディアにおいても、スウェーデンの EU からの離脱が論点とされることはほとんどなかった。したがって、EU 離脱を問う国民投票の実施というスウェーデン民主党の主張が、有権者に支持されて投票増に結びついたとは考えにくい。スウェーデンの場合、他のヨーロッパ諸国で見られるように、反 EU 感情が左右のポピュリスト政党への投票要因になったとはいえないであろう。

5. おわりに

2010 年選挙以降は 8 党システムが前提となり、左右のブロックのどちらが政権を担うか、スウェーデン民主党がどこまで議席を伸ばすか、が 2014 年と 2018 年の両選挙で共通して注目された点であった。選挙後に議会運営や政権樹立において混乱や困難が生じた状況も似ていたといえる。これはスウェーデンに限ったことではなく、他のヨーロッパ諸国でも既存の左右の大政党が得票率を減らし、左右のポピュリスト政党の議席数が伸張し、政権の樹立や議会運営が難しい事態が生じている。ポピュリスト政党と呼ばれる比較的新しい政党が一時的なブームで終わるのか、政党政治に定着するのかは、各国

²³ 2018 年 11 月の世論調査では、スウェーデンが EU 加盟国であることを 58.6% が支持しており、不支持は 15.6% と 1996 年以降で最も低かった (SCB 2018c)。

²⁴ 同調査で EU が最も高い順位であったのは親 EU の自由党の 4 位で、フェミニスト・イニシアティブを含めた他の 8 党では 10~18 位の順位であり、有権者にとって 2018 年選挙の重要争点とはいえなかった (Holmberg and Oscarsson 2018: 11)。

で今後の有権者の動向によって異なってくると考えられる。

スウェーデンの 2018 年選挙における政党毎の投票者の属性分布や投票理由などに関する詳細な調査結果は今後発表されることが考えられ、2014 年と 2018 年との質の高い比較分析は後の課題となる。現時点で入手可能な資料やデータから見ると、スウェーデン民主党はスウェーデン政治における存在を確立し、8 党システムが継続する可能性が高いと予想される。他方で、既存 7 政党は支持率・獲得議席数の維持で厳しい状況が続いている。特に穏健党は 2 回の選挙で大きく議席を減らし、社民党と環境党も 2018 年選挙では獲得議席数を落としており、今のところ大きく回復する兆しは見えない。

2018 年選挙後の政権樹立に向けた動きの中で、穏健党の一部などに政権獲得のためスウェーデン民主党との協力の模索を思案する声もあったが、中央党と自由党は穏健党がスウェーデン民主党と交渉するのであれば、Alliansen から離脱する意向を示しており、既存政党とスウェーデン民主党による協力体制の構築は難しい状況である。現時点では新たな政党が国政レベルの議会で議席を獲得する見込みは少ないことから、今後も 8 党の中で左右どちらかのブロックに属する政党とスウェーデン民主党が、どのような割合で議席を分け合うかが、スウェーデン政党政治において重要になると考えられる。

今後、スウェーデン民主党が支持率を維持または伸張した場合、左右両ブロックの既存政党がスウェーデン民主党との協力を拒否している現状の 8 党システムの下では、不安定な政党政治が継続する懸念がある。スウェーデン民主党を既存の政党システムに入れることで、スウェーデン民主党の主張・姿勢の穏健化を図るのか、既存政党が右傾化する道を選択するのか、スウェーデン民主党が有権者からの支持を失う方向に進むのか、これからのスウェーデン政治の安定性を考える上でも、選挙の考察はますます重要になるであろう。

引用・参考文献

- Aalberg, Toril et al. (eds.) (2017) *Populist Political Communication in Europe*, Routledge.
- Alliansen (2014) *Vi bygger Sverige: Alliansens valmanifest 2014-2018*.
 _____ (2018) *Alliansens reformagenda*.
- Caiani, Manuela and Ondřej Císař (eds.) (2018) *Radical Right Movement Parties in Europe*, Routledge.
- Centerpartiet (2014) *Sverige behöver närodlat politik: Centerpartiets valmanifest för mandatperioden 2014-2018*.

- _____ (2018) *Nytt ledarskap för Sverige framåt: Centerpartiets valmanifest 2018*.
- Ekeningren, Ann-Marie and Henrik Oscarsson (2015) “Ett liv efter Nya Moderaterna?”, *Statsvetenskaplig tidskrift* 117: 153-168.
- Folkpartiet (2014) *Rösta för skolan: Folkpartiet liberalernas valmanifest 2014*.
- Holmberg, Sören (2014) “Väljarbeteende”, i SVT (Sveriges Television), *SVT:s Vallokalsundersökning Riksdagsvalet 2014*, publicerad 2014.9.15, <https://www.svtstatic.se/image-cms/svtse/1410779618/svts/article2323667.svt/BINARY/SVT_ValuResultat_rikdagsval_2014_PK_0914.pdf>, accessed April 21, 2019.
- _____ and Henrik Ekeningren Oscarsson (2018) “Väljarbeteende”, i SVT (Sveriges Television), *SVT:s Vallokalsundersökning Riksdagsvalet 2018*, publicerad 2018.9.12, <https://www.svt.se/omoss/media/filer_public/5c/17/5c17fc91-31c4-4e0a-a17f-b42318edf4a4/valuresultat_rikdagsval_pk_2018_vagda_0912.pdf>, accessed March 23, 2019.
- Johansson, Linnea (2018a) “Yougov: Sista mätningen inför valet - så ligger partierna till”, *Metro*, publicerad 2018.9.4, uppdaterad 2018.9.5, <<https://www.metro.se/artikel/yougov-sista-matningen-inför-valet-så-ligger-partierna-till>>, accessed September 10, 2018.
- _____ (2018b) “Sista mätningen: S och SD i toppen”, *Metro*, September 5, 2018, s.4-5.
- _____ (2018c) “Yougov: Här är väljarnas viktigaste frågor i valslutspurten”, *Metro*, publicerad 2018.9.5, <<https://www.metro.se/artikel/yougov-här-är-väljarnas-viktigaste-frågor-i-valslutspurten>>, accessed September 7, 2018.
- _____ (2018d) “Väljarnas viktigaste frågor - det vill riksdagspartierna”, *Metro*, September 7, 2018, s.6.
- Karlsson, Karl-Johan (2014) “Moderaterna kraftigt framåt i Demoskop”, *Expressen*, publicerad 2014.8.23, <<https://www.expressen.se/nyheter/val2014/moderaterna-kraftigt-framat-i-demoskop/>>, accessed April 29, 2019.
- Kristdemokraterna (2014) *Frihet och gemenskap: Kristdemokraternas valmanifest 2014*.
- _____ (2018) *Valmanifest: Du ska kunna lita på Sverige*.
- Liberalerna (2018) *Försvara friheten: 2018 års vägval för Sverige och Europa. Liberalernas valmanifest*.
- Miljöpartiet de gröna (2014) *Valmanifest*.
- _____ (2018) *Nu klimatet kan inte vänta: Valmanifest 2018*.

- Moderaterna (2018) *Nu tar vi tagi Sverige: Valmanifest 2018*.
- Mulinari, Diana and Anders Neergaard (2017) “Doing Racism, Performing Femininity: Women in the Sweden Democrats”, in Michaela Köttig, Renate Bitzan, and Andrea Petö (eds.), *Gender and Far Right Politics in Europe*, Palgrave macmillan.
- Näsman, Per, Sören Holmberg and Kent Wännström (2014) *VALU 2010 - SVT:s vallokalsundersökning riksdagsvalet 2010*, publicerad 2014.9.5, <<https://snd.gu.se/sv/catalogue/file/4184>>, accessed March 23, 2019.
- Oscarsson, Henrik and Sören Holmberg (2016) *Svenska väljare*, Wolters Kluwer.
- _____ (2017) *Swedish Voting Behavior*, Swedish National Election Studies, Department of Political Science, University of Gothenburg, October 2017.
- Oscarsson, Henrik, Dennis Andersson, Elisabeth Falk and Jonathan Forsberg (2018) *Förhandlingsvalet 2018: Analyser av valresultatet i 2018 års riksdagsval*, Rapport 2018: 8, Valforskningsprogrammet, Statsvetenskapliga institutionen, Göteborgs universitet, 2018.10.22.
- Peterson, David (2018a) “Yougov: SD störst om det vore val i dag”, *Metro*, publicerad 2018.8.22, <<https://www.metro.se/artikel/yougov-sd-storst-om-det-vore-val-i-dag>>, accessed September 7, 2018.
- _____ (2018b) “Sex scenarier: Så stor chans för olika regeringsbildningar”, *Metro*, September 7, 2018, s.8.
- Salö, Freja (2014) “Nästan var tredje SD-väljare kommer från M”, Sveriges Television, publicerad 2014.9.14, <<http://www.svt.se/nyheter/val2014/var-tredje-ny-sd-valjare-kommer-fran-m>>, accessed September 15, 2014.
- Sandberg, Linn (2018) *Väljarnas användning av sociala medier i valet 2014*, Rapport 2018: 3, Valforskningsprogrammet, Statsvetenskapliga institutionen, Göteborgs universitet, 2018.2.27.
- SCB (Statistiska centralbyrån) (2010) *Partisymptiundersökningen (PSU) i november 2010*, ME60SM1002, 2010.12.8.
- _____ (2014) *Partisymptiundersökningen (PSU) i november 2014*, ME60BR1402, 2014.12.4.
- _____ (2018a) *Partisymptiundersökningen (PSU) i maj 2018*, ME60BR1801, 2018.6.11.
- _____ (2018b) *Partisymptiundersökningen (PSU) i november 2018*, ME60BR1802, 2018.12.7.
- _____ (2018c) “EU-sympatier 1996-2018”, senast uppdaterad 2018.12.7,

- <<https://www.scb.se/hitta-statistik/statistik-efter-amne/demokrati/partisymptier/partisymptiundersokningen-psu/pong/tabell-och-diagram/eu--emu-sympatier/eu-sympatier/>>, accessed March 21, 2019.
- Socialdemokraterna (2014) *Kära framtid: Valmanifest för ett bättre Sverige för alla*.
_____ (2018) *Det största trygghet-programmet i modern tid: Valmanifest 2018*.
- Sverigedemokraterna (2014) *Vi Väljer Värfärd!: Sverigedemokratiskt valmanifest - valet 2014*.
_____ (2018) *Valmanifest: Sverigedemokraternas valmanifest 2018*.
- SVT (Sveriges Television) (2014) “Så många har stort förtroende för politikerna”, publicerad 2014.9.14, <<http://pejl.svt.se/val2014/valu-riksdag/fortroende>>, accessed September 15, 2014.
- Tryggvason, Per Oleskog (2014) *Vikten av vikter: Sammanställning av viktade resultat från SVTs vallokalsundersökning 2014*, Rapport 2014: 13, Valforskningsprogrammet, Statsvetenskapliga institutionen, Göteborgs universitet, 2014.10.31.
_____ (2018) *Polling Accuracy in the Swedish General Election 2018*, Report 2018:6, The Swedish National Election Studies, Department of Political Science, University of Gothenburg, 2018.10.3.
- Valmyndigheten (2014a) “Val till riksdagen - Röster”, 2014.9.19 <<http://www.val.se/val/val2014/slutresultat/R/rike/index.html>>, accessed September 21, 2014.
_____ (2014b) “Val till riksdagen - Valda”, 2014.9.19, <<http://www.val.se/val/val2014/slutresultat/R/rike/valda.html>>, accessed September 21, 2014.
_____ (2018a) “Val till riksdagen - Röster”, 2018.9.16, <<http://data.val.se/val/val2018/slutresultat/R/rike/index.html>>, accessed September 17, 2018.
_____ (2018b) “Val till riksdagen - Valda”, 2018.9.16, <<http://data.val.se/val/val2018/slutresultat/R/rike/valda.html>>, accessed September 17, 2018.
- Vänsterpartiet (2014) *Vänsterpartiets valplattform för riksdagsvalet 2014*.
_____ (2018) *Vänsterpartiets valplattform*.
- Widfeldt, Anders (2015) *Extreme Right Parties in Scandinavia*, Routledge.
- 五月女律子 (2011) 「スウェーデン政党政治の変容? —2010年選挙の考察を中心として」『北九州市立大学法政論集』第38巻第4号: 63-90。
_____ (2013) 『欧州統合とスウェーデン政治』日本経済評論社。
_____ (2015) 「スウェーデンにおける2014年欧州議会選挙」『EUIJ-Kyushu

Review』 Issue 5 : 1-25。

新川敏光編 (2017)『国民再統合の政治 ―国家とリベラル・ナショナリズムの間』ナカニシヤ出版。

高橋進・石田徹編 (2016)『「再国民化」に揺らぐヨーロッパ ―新たなナショナリズムの隆盛と移民排斥のゆくえ』法律文化社。

渡辺博明 (2013)「スウェーデンにおける選挙政治の変容と新右翼政党の議会進出」『龍谷法学』第46巻第2号 : 393-423。

_____ (2016)「スウェーデンにおける「再国民化」と民主政治のジレンマ」高橋進・石田徹編『「再国民化」に揺らぐヨーロッパ ―新たなナショナリズムの隆盛と移民排斥のゆくえ』法律文化社。

_____ (2017)「スウェーデン福祉国家における移民問題と政党政治」新川敏光編『国民再統合の政治 ―福祉国家とリベラル・ナショナリズムの間』ナカニシヤ出版。

謝辞 : 本稿は、日本学術振興会研究拠点形成事業 (A.先端拠点形成型)「日欧圏におけるコミュニティの再生を目指す移住・多文化・福祉政策の研究拠点形成」(2016-2020年度)による成果の一部です。また査読者に深く感謝申し上げます。

Keywords: スウェーデン 議会選挙 政党システム 左右ブロック 右翼ポピュリスト政党